

サハラ砂漠のオアシス

ジャネットの結婚式

アルジェリアの南東にあるオアシス、ジャネット。ここでは、数日間にわたり、新郎と新婦がそれぞれの客を迎える、別々に祝います。新婦と村の女性たちが行う、3日間の結婚式をご紹介します。

明日は、ファティマの結婚式。いとこのアイシャの家では、ファティマの結婚式の準備が進められている。キッチンでは、子ども達と女性達が翌日のパーティーで配るポップコーンなどを作り、隣の中庭ではアイシャと友達がプラスティックの花やレースを大きな絨毯に縫いつけ、式の飾りを一生懸命作っている。



ガンガを叩く女性。祭りにはかかせない楽器

ファティマもアイシャも、ジャネットのゼルアズ村で両親と一緒に住んでいる。住民のほとんどはトゥアレグ族といい、元は砂漠の遊牧民だ。トゥアレグは元来、母系社会である

利といった女性の自由を認めているが、イスラム教の影響を受けているので、公共の場では男女は分けられており、日常生活で男女が直接出会うのは難しい。

そんなジャネットでは、ほとんど



100円ショップ顔負けの青空市場



椰子の木

フリカ

新婦のファティマは22歳。石油掘削会社に勤めている33歳のムサと結婚することになった。



◆壮大な砂漠に囲まれている

トゥアレグ族の結婚式は、一般的に3日から7日にわたり、費用を負担する新郎の財力によって日数が決まる。式には、ほぼ村人全員が参加するといつてよく、その費用は年収をはるかに上回る場合もあり、その上、新郎は新婦に、新居を与えることになっている。婚約してから約2年、ムサは1400キロ北にあるハシメサウドの精油所を往復しながら、結婚資金を稼いで新しい家も建てた。この期間は長く思えるかもしれない

新郎側は、クスクスを食べ、お茶を飲んだりしながら、おしゃべりをして祝う。対照的に新婦側は、日ごとの儀式と、ダンスあり音楽ありのお祭りを行い、結婚を祝う。普段は慎ましい暮らしぶりの女性達だが、結婚式のような大きなお祝いの時には女性が主役となり、協力して式を行い、喜びを分かち合う。

のカップルは携帯電話を通して付き合い始める。恋人同士の付き合いは、兄妹や親戚を通じて、まず電話番号を交換し、そして何度となく長電話を重ねた後、二人きりのデートとなる。月明かりの下、男がテントに、密かに女をくどきにきた昔のように、トゥアレグの逢引は皆の黙認のもと、人目を引かぬよう礼儀正しく行われる。

トゥアレグ族には、代父、代母と呼ばれ、実の両親が亡くなつた場合、残された子どもたちの面倒を見る人を決めておく習慣があり、その人たちがそれぞれの祝いの席を設ける。

ファティマ達の結婚式は3日間行われる。



ジャネットへと続く道

アルジェ

アルジェリア

ジャネット
タファサセット
ワジ

ゼルアルズ村

ジャネットとは

ジャネットは、細長いオアシスで、椰子の並木に縁取ら

ることを考慮すれば、月給3万デイナーのムサは恵まれている。もつと婚約期間が長くなるカップルもいるわけだ。

10年ほど前よりアルジェリ

ア北部から、大勢のアラブ人が移住をしてきたこともあり、水道、電気などが整備され、町の中心部は家電店、家具店、100円ショップ、顔負けの青空市場などが立ち並ぶ。街中は、ターバン姿の男達が運転するトヨタの四駆車が駆け巡り、各家庭にはテレビがあり、衛星放送で他の国の番組も見られる。

気温は、10月～3月は0度から25度、4月～9月は5度から35度。ジャネット近辺の雨量は不規則だが、降水時のみ流水のある河川、ワジや地下水によって椰子の木の庭園は一年中枯れることはない。

女性達は母親や祖母の遺産である小さな庭を持ち、そこでナツメグや様々な果物、穀物を育て、家畜も飼育している。

1日目

朝から、ヘンナ儀式の準備が始ま
る。午前9時、6人くらいの女性エ
スコートが、ヴェールで顔を隠した
ファティマをアイシャの家へ連れて
行く。エスコートはこの3日間の結
婚式が終わるまで新婦に付き添い、
親戚や親友の前以外では顔を現して
はいけない彼女を大切に守る。

小さなリビングでは、テレビから
コーランが静かに流れ、女性達は新
婦を囲んで、花やハートなどの模様
に切り抜かれた粘着テープを丁寧に
手足に貼り、水に湿らしたヘンナの
ペーストを貼る。大体一時間かけて
ペーストを貼つたあと、ファティマ
は手足をビニール袋に包まれ、ソフ
アに寝かせてもらう。ヘンナが肌を
綺麗な濃い赤に染めるまで、そのま
ま5時間動かさずに待たなければなら
ない。その間、ファティマはテレビ
をぼんやり見ながら、コーランの詩
篇をつぶやいていた。

インディゴ・ベールの儀式

午後4時になり、新婦の準備が整
つた。これから、トゥアレグの伝統

を永続させるインディゴ・ヴェール
の儀式が始まる。インディゴは太陽
の日ざしから肌を守る特性があり、
肌に潤いを与えるといわれている。
この藍色はトゥアレグ族の象徴で、
その為、彼等はブルーメン（青い人
々）と呼ばれているファティマは慣
習に従いエスコートをされながら、
砂道をうつむきながら歩き、会場で
あるアイシャの叔母さんの家へと向
かつた。夕方の柔らかい光があたる
中庭の石壁に、ファティマを待つ女
性達が青や緑の衣裳を着てもたれか
かっている姿は素敵な風景である。
到着すると、部屋でファティマも青
いアルバイと呼ばれる、伝統的なゆ
つたりとした長いチュニックに着替
え、頭と肩にきらめく純白のヴェー
ルを被り、中庭の奥に座つた。

スカーフの隙間から目だけがのぞ
く老女が儀式を始める。新婦の白い
ヴェールを脱がせ、トゥアレグ伝統
のインディゴ・ヴェールを重々しく
かぶせる。そして、改めて白いヴェ
ールをその上にかけた。儀式はユー
ユーの叫び声で迎えられる。ユー
ユーは、トゥアレグ族の女性に伝わる
もので、舌を激しく上下に動かしな
がら高い声をあげ、喜びや感動を表
現する鋭い叫びである。



ヘンナは薬用植物で化粧品としてイスラム教徒の女性に使われている。新婦だけでなく、結婚式のために皆、手足をヘンナで染めている。



上・先祖の遺産。右・新婦のエスコート達。独身女性は顔をベールで隠すことはないが、結婚後は他のイスラム国と同様に、顔の露出は控えなくてはいけない。左・粘着テープを貼ってもらうファティマ（右）





祭りの会場

このヴェールの儀式が終わると、いよいよ夜の祭りが始まる。

会場は、アイシヤの家の前に広が

る砂道の一角にブリキ板で囲われた広いスペース。ここで今日と明日の夜、女達の歌声と太鼓が響き渡る。女性なら外国人でも歓迎されるが、男達はこのお祭りに参加する事はも

ちろん、見物する事も禁じられており、場外で家に戻る妻や姉妹を四駆車で待つのみだ。

女の子達はアイシヤの部屋で、いつもはしないお化粧を一生懸命にしたり、ドライヤーで髪を伸ばしたり、派手なワンピースに着替えたり、いそいそお洒落をしている。お洒落がすんだ女の子達は、会場の新婦のソファの前に座り、飾りつけを見ながら、楽しそうにおしゃべりをしていった。配られたポップコーンの袋を開

夜の祭りとヘンナ儀式

このヴェールの儀式は結婚するトゥアレグ女性にとって、祖先からの贈り物を受け取るとても重要な式である。

ヴェールの儀式は結婚するトゥアレグ女性にとって、祖先からの贈り物を受け取るとても重要な式である。

女の子達はアイシヤの部屋で、いつもはしないお化粧を一生懸命にしたり、ドライヤーで髪を伸ばしたり、派手なワンピースに着替えたり、いそいそお洒落をしている。お洒落がすんだ女の子達は、会場の新婦のソ

ファの前に座り、飾りつけを見ながら、楽しそうにおしゃべりをしていた。配られたポップコーンの袋を開

き、ピーナツとあめが一緒に入った中から占いくじ券を出し、「今日にないことは明日にある」や「マイケル・ジャクソンよりよろしく」と書かれたメッセージを読みながら、大笑いしている娘たちもいた。

新婦とエスコートが会場に着く頃には、ゼルアズとその他の村からやつて来た150人くらいの女性が集まっていた。招待客たちは、なんとも興味深い。伝統的なアルバイを着たお婆さん、デコルテ姿の娘、赤銅色の肌、金髪、黒人、アルジェリア北部ガルダイア地域の派手なドレスなど、年齢、容姿のさまざまな女性達が混りあっている。ファティマは皆のユーユーの暖かいもてなしを受けながらソファに座り、左右には二人の親戚が囲んで座った。ファティマは白いスパンコールをちりばめたドレスと先のとがったヒールシューズというアラブ式のファッショントしているが、白いヴェールをかぶりうつむく姿は、トゥアレグの価値観に従う慎みと羞恥心を表していた。

そこに、ヘンナ儀式を告げる太鼓の音が聞こえてきた。女性達は家を出て、ガンガという皮の太鼓を叩き歌いながら、段々と追いついた女性達と一緒に、新婦の回りに半円を描

く。白いヴェールの列が光輪のよう

に囲む。輪の中で、女性達はアルバイの長袖を右左に振りながら、合唱する。一人の女性がヘンナの入ったピンク色のバスケットを持ち歩き、新婦の下に跪く。そして、健康と豊穣を象徴するヘンナを手足に少しつけてから、周りで掌を差し出す娘達にも情深く配った。

式が終わると、エスコートはユーヨーの響きと共に新婦を連れて会場を去る。新婦は翌日の結婚式まで両親の家で最後の夜を過ごすのだった。



ヘンナが染まるのを、じっと待つファティマ

2日目

朝9時、女性達は大騒ぎで、鍋やガスコンロ、食器、ナイフなどを持ち寄り、アイシャの家の中庭に続々と集まつた。今夜のお祝いの料理を作るのだ。メニューは、クスクスとサラダ、オレンジジュース。クスクスは、パスタに使われるセモリナ粉を粒上にし、肉や魚、野菜などを使ったソースをかけて食べる北アフリカの家庭料理だ。砂上に用意されたキッチンに道具を置くと、莫産の上に座つて料理をはじめた。それぞれグループに分かれて、野菜の皮をむいたり、さいの目に刻んだり、鉢の中でにんにくと棗の実をつぶしたりする一方、羊とラクダの肉を切る女性もいる。遅れて到着した女性達は、甜菜、トマト、キュウリなどの季節の野菜でサラダを作つた。



クスクスにかけるソースとサラダが出来上がつたところで、クスクスのセモリナの加熱が始まる。粉を水とバターでふくらませ、大鍋の上で15分程蒸し、特大の入れ物に入れ、手で細かい粒にし、出来上がり。これで料理の準備は整つた。

歌と踊りで祝う最後の夜

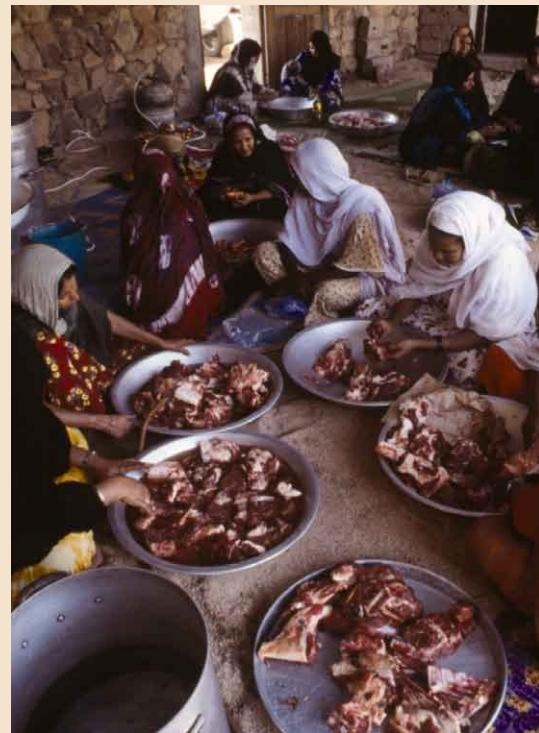
夜9時、昨日と同じ女性でいっぱいの会場に、二人の若い男性ディスクジヨッキーがやって来て、流行りのアラブ曲をかけ、祭りが始まつた。スピーカーの隣では幼い少女達が笑いながら、お姉さんの真似をして腰を一生懸命振り、可愛らしく踊つて

いる。段々盛り上がっててきた時に、女性ミユージシャン達がディスクジョッキーと交代し、会場の真ん中に輪になつて座り、デルブカのアラブ太鼓、テンデの皮造り太鼓、ブリキ缶などを叩き、皆でトゥアレグの伝統的な歌を歌い始める。あちこちで女性が二人組みで立ち上がり、腰にスカーフを丁寧に結んでから、腕をしとやかに動かし、ヒップをゆつくり振り、前後に進み踊る。集まつた女性達は座つたまま手を叩き、自分の金ブレスレットや携帯電話を好

きの会場に、二人の若い男性ディスクジヨッキーがやって来て、流行りのアラブ曲をかけ、祭りが始まつた。スピーカーの隣では幼い少女達が笑いながら、お姉さんの真似をして腰を一生懸命振り、可愛らしく踊つている。段々盛り上がっててきた時に、女性ミユージシャン達がディスクジョッキーと交代し、会場の真ん中に輪になつて座り、デルブカのアラブ太鼓、テンデの皮造り太鼓、ブリキ缶などを叩き、皆でトゥアレグの伝統的な歌を歌い始める。あちこちで女性が二人組みで立ち上がり、腰にスカーフを丁寧に結んでから、腕をしとやかに動かし、ヒップをゆつくり振り、前後に進み踊る。集まつた女性達は座つたまま手を叩き、自分の金ブレスレットや携帯電話を好



楽しいおしゃべりと共に作業は進む



ラクダ肉を器に取り分ける女性達。ラクダからは大量の肉がとれるため、結婚式など大人数が集まる時によく使われる



◆結婚式のメニュー





セモリナの加熱。式の一ヶ月前に、新郎から村の女性全員にセモリナ粉があらかじめ配られ、各自粒上にしたものと、当日持ち寄り調理する

「友達は行つてしまい私
の入り口に現れては、大きい銀の盆
はうつむき、左右を親戚の者に支え
られたゆつくりと歩く。
スヌスを掛けたり、お茶の用意をして
いる。そして次々とパーティー会場
の用意に大騒ぎだ。アイシャ達は大
きなバケツから一生懸命オレンジジ
ュースをブレイクボトルに移
し換え、中庭では大勢の女性達がク
ースを掛けたり、お茶の用意をして
いる。そして次々とパーティー会場
の入り口に現れては、大きい銀の盆
はうつむき、左右を親戚の者に支え
られたゆつくりと歩く。

きなダンサーに手渡して（これは後
から返してもらうのだが）、満足度
を表し、激しくユーユーを叫びなが
らダンスを盛り立てる。ミュージシ
ヤン達も、ヴェールの裾に挟まれる
紙幣のお陰でますますのつてくる。

その頃、キッチンの中では、食事
の用意に大騒ぎだ。アイシャ達は大
きなバケツから一生懸命オレンジジ
ュースをブレイクボトルに移
し換え、中庭では大勢の女性達がク
ースを掛けたり、お茶の用意をして
いる。そして次々とパーティー会場
の入り口に現れては、大きい銀の盆
はうつむき、左右を親戚の者に支え
られたゆつくりと歩く。

その間、アイシャの叔母さんの家
で、ファティマは花嫁衣装に着替え、
出番を待つ。女性達は彼女のアルバ
イのローブをお香の上に広げて、良
い香りを沁みこませ、最後にメーク
アップをチェックし、いよいよ出発
する。ゼラズの静かな道を、新婦
はうつむき、左右を親戚の者に支え
られたゆつくりと歩く。

ファティマが女性満杯の会場に現
れると、皆がちょうど食事を終え、
パーティーが再開される時だつだ。
茶の小さいグラスを皆に配つてから、
お線香の香りいっぱいのヴェールを
漂わせて、キッチンに消える。

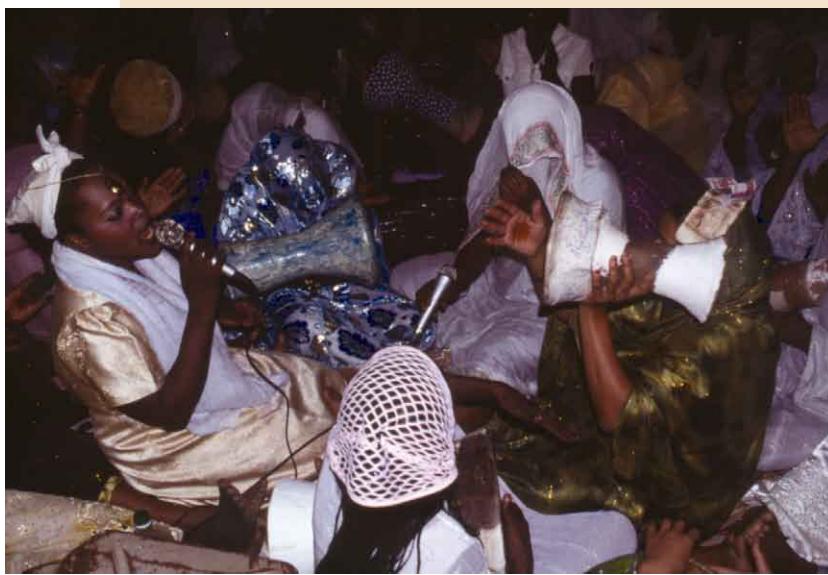
アスコートと一緒につつアーニーに
嫁はエスコートと一緒につつアーニーに
並んで座り、ヴェールの下から皆の
樂しんでいる姿をじっと眺めていた。
11時になると、道の向こうからや
つて来た新郎側の男性エスコートが
歌う声がかすかに聞こえてきた。そ
れを合図に、年寄りの女性はファテ
イマに近寄り、耳に何かを

つぶやく。するとユーユー
の叫び声が沸き起り、立
ち上がった新婦は、エスコ
ートと一緒に会場を去る。
行列は砂道をゆつくりと
歩み、ガンガの響きにあわ
せ穏やかなもの悲しい歌で
星空を満たす。エスコート
の白く眩いヴェールに優し
く包み込まれた新婦は、叔
母さんの首に腕をまわして、
わざと歩かずに重い荷物の
ように、夫が待つてゐる親
戚の家までゆつくり引つ張
つていかれる。

ファティマが女性満杯の会場に現
れると、皆がちょうど食事を終え、
パーティーが再開される時だつだ。

我々は金の宝を連れて行くから。」
こう歌いながら、行列は家の戸口
に座つた新郎と数人の男達を通り越
して、親戚の家に入つた。部屋の中
に入つても歌声はやまず、新婦は数
人の親戚に囲まれ、奥の部屋に入る。
歌は消え、老女達は無言で去る。

新郎にファティマを渡すその前に、親
戚は彼女の涙を乾かし、最後の祝福
の言葉を告げた。明日の夜からは、
いよいよ新居での生活が始まる。

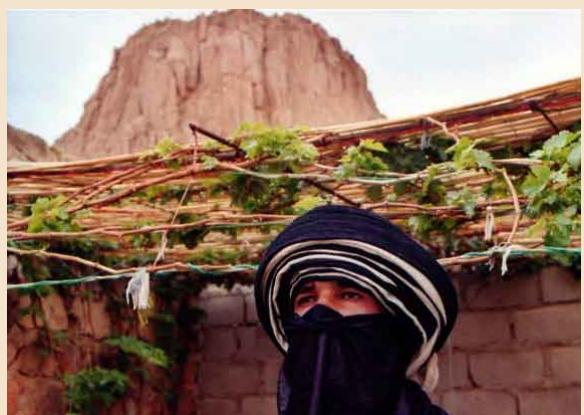


ミュージシャン達。祭りを盛り上げる

3日目

朝早く、ファティマはエスコートに伴われて、夫の代母の開催した祭りに連れて行かれた。彼女は部屋に入り、白いベールで全身を隠し、夫の家族からもらった金の宝石と紙幣を頭の上に乗せられ、そのままじつと座る。

二つある中庭では、それぞれ世代の違う祭りが同時に行なわれている。中庭の一方では年上の女性達が集まり、「金の宝に満足する」と強烈な声で歌う老女にあわせ、ガンガと太鼓を叩き、踊る。顔をベールで隠しながら



新郎のムサ





女性は、母親や祖母から受け継がれる小さな庭を持ち、そこでナツメグや様々な果物、家畜の飼育をする

こうして結婚式は終わりを告げ、老女達を最後にお客さんは次々と引き上げる。

やかな新築祝いは、新婦が徐々に新しい環境に慣れるために行い、これから自立してきちんと家事を営むよう、娘時代と別れる為の通過儀礼なのである。夜遅くまで音楽は続き、老女達を最後にお客さんは次々と引き上げる。

コートは新郎と友達が集まっている大きなリビングに入る。そこでは、ガンガを叩き歌う老女達の周りで、男達がトゥアレグ族の伝統的な刀を振り回しながら踊っていた。この賑

われ、一緒に感嘆の声を発しながら、明々と電灯を付けた各部屋を訪れる。新居はジャネットの伝統的な家と違つて中庭がない西欧式のコンクリート造りである。

家の点検が終わると、新婦とエス

がら、トランス状態で踊る女性の姿も何人か見てとれた。

もう一方の中庭では、友達からファティマへのお祝いの品を紹介している。アラブのダンスマュージックで盛り上がりながら、一人の女性がスーツケースから次々と出した下着、スリッパ、ガウン、シーツなどを賑やかに紹介している。その他にも、絨毯、ガスレンジ、ヒーターなどがプレゼントされたようだ。彼女達が結婚する時には、今度はファティマがお返ししなければならない。

お昼になると、皆は特別なご馳走であるラクダのレバーと内臓のソースをかけたマカロニを食べ、お茶を

飲んでから帰つていった。



その夜、ファティマは初めて新居に足を踏み入れた。エスコートに伴

女性達は、また元のジャネットの静かな日常生活にもどつていく。

ちょうどラマダンというイスラム教による断食の聖月が始まり、オススは6時の夕暮れまでほとんど活動がなく、結婚式も行われない。しかし、あと9ヶ月も経てば、ファティマは子供を生むために実家の母のところに戻り、再び、男子禁制のお祭りが盛大に行なわれるだろう。■

デコート・豊崎・アリサ 1970年
パリ生まれ。父はフランス人、母は日本人。98年国際協力団体による沙漠化防止計画の通訳をきっかけにサハラ砂漠と出会う。その後、トゥアレグ族に関する執筆活動を開始。2004年にはサハラ砂漠を横断する塩キャラバンのドキュメンタリー映画を4ヶ月かけ撮影。ジャネット及び観光の情報報を自身のサイトでも紹介している。

<http://20six.fr/saharaelki>

